

# 今大会を顧みて

日本教職員バドミントン連盟  
副会長 稲石一雄

宮崎の皆さん、お久しぶりです。10年ぶりに戻ってきました。10年前、私が理事長の時代に大会を開催していただきました。その時は台風が来て、天井に吹き込んだ雨水がフロアに落ちて、コートを変えるなどしました。また、日本協会のメダルの数が足りず、探していたら西都市で行われていた定通大会の方に行っていることが分かり、ホッと胸を撫で下ろしたりと、色々と思いの出のあるところでした。その時に色々とお世話をしてくれた協会の方が審判の講習で東京に来たときには、浅草で一杯やったりしました。また、バドミントンとは別の関係で知り合った方が、宮崎に戻り県体育館に勤務しているということで、今回再会したりと縁の深い県になりました。

さて、今回は記録的な猛暑の大会になりました。レフェリーの報告にもありますように熱中症の疑いで搬送された選手もいました。大きな事故にならずによかったのですが、すべての体育館に空調が整っているわけではないので、今後とも運営には最新の注意を払わなければいけないと感じました。また、選手の方々も「夏は暑いものだ」「昔はエアコンなど無い中でやっていたのだから、大丈夫だ」などと思わずに、体調の管理は十分に心がけて下さい。

試合においてはベンチに入るときの服装への認識がまだ浸透していないと感じました。インターハイでもTシャツや七分丈のズボン禁止だそうです。1種大会の品格を保つためにもこういうところからしっかりしていきたいものです。

大会結果は今年もまた新チャンピオンが数多く誕生しました。特に一般は男女単複ともに初優勝です。全日本総合大会での活躍も期待しています。70歳男子単では地元宮崎の廣田選手が優勝し、地元メディアの取材を受けていました。また、地元の小中学生が熱心に応援する姿は大変微笑ましいものがありました。総合成績でも宮崎県は9位になりました。大変喜ばしいことであり、総合優勝制度の目的をある程度達成してくれたことにもなります。毎年のように開催地が上位に顔を出してきます。開催地だから出やすい、ということはあると思います。しかし、別の見方をすればこの大会の出場資格を持っている選手が潜在的に多くいるということです。是非来年以降も多くの選手が出てくるように、各支部連盟の方には頑張ってくださいと心からお願いします。

最後になりましたが、今回の開催にあたりご尽力いただいたすべての関係者の皆様に篤く御礼を申し上げます。ありがとうございました。



《地元の応援》



《円陣を組む宮城県チーム》



《取材を受ける廣田選手》